



TITLE:

表紙、序、例言、目次、図版目次
、挿図目次、表目次、中扉、奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、序、例言、目次、図版目次、挿図目次、表目次、中扉、奥付.
京都大学構内遺跡調査研究年報 2002, 1997・1998

ISSUE DATE:

2002-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226707>

RIGHT:

京都大学構内遺跡調査研究年報

1997・1998年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

本年報は、1997・1998年度に埋蔵文化財研究センターがおこなった発掘調査の成果をまとめたものである。京都大学構内遺跡の調査は、組織的に実施されるようになってからすでに25年以上が経過し、その間におこなった発掘調査は200件以上におよんでいる。小規模な試掘調査や工事に際しての立合調査なども含めると、その数倍にのぼる。近年では、構内の再整備にともなって、調査件数は増加する傾向にあるとともに、桂地区にはあらたなキャンパスが加わり、その整備にともなって遺跡の確認調査の必要性も生じている。それと同時に、これまでの点として分散した成果を、総合的に活用していく方策も、調査現場においては求められている。また、本学は創立百周年を経過し、おりしも時計台を改築した記念館の建設が進められている。近代化遺産としてのキャンパス創設期の遺構や遺物に関する検討も、京都大学の歴史的な記録としての活用にもつて、一助となろう。

この年報では、調査成果の迅速な公開をはかるため、2ケ年の報告を収録した。また、過去に調査を実施した総合人間学部構内の弥生前期水田遺跡の土壌について、皇學館大学の外山秀一氏からプラント・オパール分析の結果をいただいたので、紀要として報告した。ここ数年間の増加した発掘調査に追われたため、本年報では資料の検討が十分に深められていない点がある。多くの課題を抱えているが、ご高評をお願いしたい。

おわりに、これらの調査を進めるにあたって御指導・御助言をいただいた学内学外の関係者および関係機関、とりわけ、多くの協力を賜った総合人間学部・工学部・施設部の関係者各位には、ここに厚く御礼申し上げる次第である。

2002年10月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

鎌田元一

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で1997年4月1日から1999年3月31までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学埋蔵文化財研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系（日本測地系、 $x = -108,000$ $y = -20,000$ ）が（ $X = 2,000$ $Y = 2,000$ ）となる京都大学構内座標により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。
Ⅰ：京都大学総合人間学部構内 AR24 区の発掘調査
Ⅱ：京都大学本部構内 AU28 区の発掘調査
Ⅲ：京都大学総合人間学部構内の立合調査
（例 Ⅰ 1：京都大学総合人間学部構内 AR24 区出土遺物 1 番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また遺物の撮影はそれぞれ報告者が担当した。
- 10 編集は、伊藤淳史と富井眞が担当し、清水芳裕、千葉 豊、梶原義実、磯谷敦子、北尾敬子、柴垣理恵子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 1997・1998年度

目 次

第Ⅰ部 1997・1998年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 1997・1998年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	2
第2章 京都大学総合人間学部構内 AR24 区の発掘調査	3
1 調査の概要	3
2 層 位	4
3 遺 構	5
4 遺 物	8
5 小 結	21
第3章 京都大学本部構内 AU28 区の発掘調査	23
1 調査の概要	23
2 層 位	23
3 遺構と遺物	24
4 小 結	26
第4章 京都大学総合人間学部構内の立合調査	27
1 調査の概要	27
2 層 位	27
3 遺構と遺物	29
4 小 結	32

参 考 文 献	33
京都大学構内遺跡調査要項	35
報 告 書 抄 録	43

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 XIV

京都大学構内遺跡におけるプラント・オパール分析Ⅰ

——AO22区発掘調査——

1 はじめに	45
2 地形環境と試料の採取	46
3 分析の方法	49
4 分析結果	49
5 考 察	57
6 おわりに	61

図 版	巻末
-----	----

図 版 目 次

- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都大学総合人間学部構内 AR24 区
- 1 東調査区東部完掘後全景（南から）
 - 2 東調査区南部完掘後全景（西から）
 - 3 土坑 SK8 上面遺物出土状況（南から）
 - 4 土坑 SK8 下層遺物出土状況（南から）
- 図版 3 京都大学総合人間学部構内 AR24 区
- 1 西調査区近世遺構（北から）
 - 2 西調査区古代・中世遺構（北から）
 - 3 集石土坑 SX1（北から）
- 図版 4 京都大学総合人間学部構内 AR24 区
- 縄文・弥生時代の遺物
- 図版 5 京都大学総合人間学部構内 AR24 区
- 古代・中世の軒瓦
- 図版 6 京都大学総合人間学部構内 AR24 区
- SX1 出土銭貨
- 図版 7 京都大学本部構内 AU28 区
- 1 完掘後全景（北から）
 - 2 植物根茎痕とみられる斑点状痕跡（東から）
 - 3 出土遺物
- 図版 8 京都大学総合人間学部構内の立合調査
- 1 弥生時代の遺物
 - 2 古代以降の遺物(1)
- 図版 9 京都大学総合人間学部構内の立合調査
- 古代以降の遺物(2)
- 図版10 京都大学構内遺跡におけるプラント・オパール分析 I

挿 図 目 次

総合人間学部構内 AR24 区の発掘調査

図 1	調査区の位置	3
図 2	調査区の層位	4
図 3	調査区検出の遺構	6
図 4	中世の掘立柱建物跡 SH1	7
図 5	縄文時代の土器	8
図 6	弥生時代の土器(1)	9
図 7	弥生時代の土器(2)	11
図 8	東調査区出土古代・中世遺物	12
図 9	SK3・SK11・SK7・SD7・SD8・SH1 出土遺物	14
図10	SX1 出土遺物	15
図11	SE2・灰褐色土出土遺物	16

本部構内 AU28 区の発掘調査

図12	調査区の位置と西壁の層位	23
図13	検出遺構	24
図14	出土遺物	25

総合人間学部構内の立合調査

図15	主要調査地点と層位柱状図	28
-----	--------------	----

図16	弥生時代前期の土器	30
図17	古代以降の土器・陶磁器	30
図18	軒丸瓦・軒平瓦	31
図19	近世の墓石	32

京都大学構内遺跡における

プラント・オパール分析 I

図20	遺跡の位置	45
図21	京都盆地地質図	46
図22	基本層序模式図	47
図23	試料採取地点図	48
図24	プラント・オパール分析結果(1)	50
図25	プラント・オパール分析結果(2)	51
図26	プラント・オパール分析結果(3)	52
図27	プラント・オパール分析結果(4)	53
図28	プラント・オパール分析結果(5)	54
図29	プラント・オパール分析結果(6)	55
図30	分析試料とした土器	56
図31	プラント・オパール分析結果(7)	56

表 目 次

表 1	SX1 出土銭貨	17
表 2	SX1 出土銭貨の計測	18
表 3	京都大学構内遺跡のおもな調査	36
表 4	地層の堆積状況とイネ・ヨシ属の 検出状況	58
表 5	水稲作の段階的展開	60

第Ⅰ部 1997・1998年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 1997・1998年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 京都大学総合人間学部構内 AR24 区の発掘調査

第3章 京都大学本部構内 AU28 区の発掘調査

第4章 京都大学総合人間学部構内の立合調査

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 XIV

京都大学構内遺跡におけるプラント・オパール分析 I

——AO22区発掘調査——

外山 秀一

2002年10月1日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報
1997・1998年度

編集 京都大学埋蔵文化財研究センター
発行 京都市左京区吉田本町
印刷 有限会社 眞 陽 社
製本 京都市下京区油小路仏光寺上ル